

# 「国民的スター」の消滅

## —テレビ離れと集合的記憶—

### 要旨

氏名：市川大輝

1960年代に一般家庭に普及したテレビは、国内最大の娯楽創造媒体であった。俳優や歌手などのタレントは、テレビ番組に出演することによって、国内の幅広い層からの認知や人気を獲得することに成功した。テレビ全盛期の時代には、「ザ・ドリフターズ」や「SMAP」など、高水準の認知と人気を獲得した「国民的スター」という「集合的記憶」を創出する機能を有した。しかし、2010年代にテレビの視聴習慣が薄れる「テレビ離れ」の傾向が生じ、動画配信サービスの利用が拡大すると、娯楽創造媒体としてのテレビの優位性が揺らいだ。

そこで、本稿では、2010年代後半に生じた「テレビ離れ」によって、「集合的記憶」である「国民的スター」を創出するというテレビの機能がどのように低下したかを明らかにするため、タレントの認知度と人気度の変動が、「テレビ離れ」の発生前後でどのように変化したかを検証した。分析の結果、認知度の高低にかかわらず認知度の上昇が難しくなった一方、人気の高いタレントほど人気低下しやすい傾向が強まったことが確認された。すなわち、「テレビ離れ」に伴いテレビによる認知拡大機能が低下したこと、及び、「テレビ離れ」の発生後であっても一定水準までの人気獲得は可能であるものの、高水準の人気を獲得・維持することは困難になったことがわかった。

以上より、テレビが創出する「スター」という存在においても、記憶の個人化・細分化が進行し、「国民的スター」という「集合的記憶」が喪失していることが確認された。